

文化薫道

◆其の五十六 癒しの湯の地名 ユノカミ

未知の病が流行して新たな形の生活が必要となり、多くの人々が戸惑い疲れているのではないだろうか。古来より人々の疲れを癒してきたものの一つに「温泉＝湯」があります。

市内には何カ所か「湯」のつく地名が残る、『筑紫野市史民俗編』には、その内の一つに関連する興味深い言い伝えが収録されています。その概要は「二日市と永岡の二人の湯の神さまが相撲をとって、二日市の神さまが勝ったので、二日市には湯が出て永岡には出ない。しかし、永岡の小高い丘に降った雪はすぐに解ける」というものです。実際に、湯町と永岡には「湯の上(ユノカミ)」という地名があります。

その永岡にある「薬師の杜(もり)公園」に、薬師如来と淡島大明神を祭った湯の神様が鎮座しています。薬師如来は二日市温泉と温泉発見の由来とされる武蔵寺にも祭られており、病気を癒すという点で温泉と深

い関係があるようです。

また、淡島大

明神の祭神

の一人、少彦

名神(すくな

びこなのか

み)は、医療



湯の神様(左が薬師如来、右が淡島大明神)

や温泉の神様ともいわれています。この「湯の神様」は、明治初頭の『福岡県地理全誌』に「柚ノ神(ユノカミ)」と記載されています。

現在、永岡に温泉はありませんが、地域には「湯気」のぼる所を掘ったところ湯が出てきたので「神さまを祭った」という話が伝わっています。昔は「湯の神様」へ子どもが相撲が奉納され、現在は季節ごとのお籠(こもり)が行われています。

「湯の神様」は今も人々に大切に祭られ、「湯の神様のおかげで」という言葉のように人々の心を温め、癒し続けています。

問い合わせ先／文化財課

